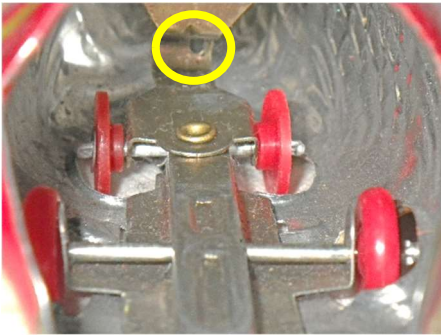


小魚を呑み込む大魚

ゆきや(2021、01、19)



ブリキ製の魚のおもちゃが来ました。
随分昔に夜店で買った物で、小魚を大魚が追いかけて行って、呑み込むのだそうです。
今、二つは別れていて、動き方など分かりませんが、紐か何かを小魚の尾に結んで、大魚の中に引き込むのでしょうか。



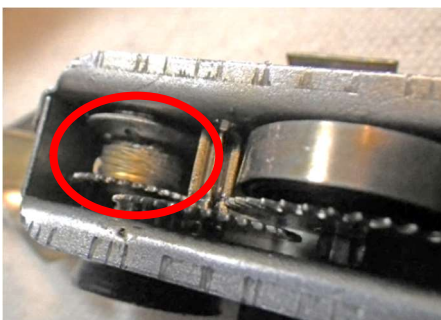
大魚の口の中をのぞくとこんな風です。
手前が下ったスロープ状の台車があります。
台車は随分と手の込んだ作りで、左右にも振れるようになっています。
また、奥にはストッパーの様なものがありますが、形もただの停止板ではなさそうです。
紐を結ぶ為でしょうか、小穴もあります。(黄丸印)



小魚の方には、ギッシリとメカが詰まっている、というよりは、メカに魚が乗っているようなものです。
後ろ側がゴム車輪ですから、駆動輪でしょう。
ゼンマイを巻くためのシャフトも見えます。(青枠)



分解してみました。
左から、大魚と中の台車です。
台車の手の込んだ作りは、どんな動きをするのか、良く分かりませんが、これで小魚に近寄っていくのでしょうか。
右は小魚の中のギヤボックス、そして小魚です。



小魚のギヤボックスの端に糸車があり、テグスがギッシリと乱れて絡みついていた。(赤丸印)
テグスの絡みをほぐすのに随分手間取りましたが、途中で切れなどは無く、整理できました。
テグスを左方向に引き伸ばすとゼンマイが巻かれ、逆にテグスを巻きこむ力が生まれます。

イメージでは、大魚が小魚に寄って行って呑み込むように思われますが、実は小魚が後ずさりして大魚の口に自ら飛び込むという事なのでしょう。

ギヤボックスの穴を通してテグスを伸ばし、大魚の停止板の小穴に結び付けました。ゼンマイを一杯に巻いてテグスを巻きこみ、小魚を大魚の腹に納め、停止板に結びました。これで小魚を引っ張り出して手を放すと、小魚は大魚に近寄って行き、最後はパツクリと呑み込まれる筈です。



ところが、なかなか思う様に動いてくれません。原因は、ギヤの一部がすり減って、動きを止めていたのです。このすり減りにギヤが引っかかってストップ。残念ながら、金属ギヤのこの部分は治せません。平ギヤを横にずらす事も考えましたが、そのスペースはありません。



ただ、ショックを与えるとギヤの引っかかりが外れ、後は勢いで動く事が分かりました。大魚の背を指先で「チョン」と叩いてやると、小魚は勢いよくいささか暴走気味に、大魚の口中へ吸い込まれて行きました。

部品の凝った形状から想像すると、もっと何かできそうな気はするのですが、今回の修理は、ここから先へは進めませんでした。

付け足しです。

この魚は金魚か？ 鯉か？ それとも……？
おもちゃ病院でも意見が分かれました。

ネットでこんな画像を見つけました。
この魚は明らかに金魚でしょう。
今回修理した大魚は、鯉のぼりの女鯉に見えます。
さしづめ小魚は、鯉のぼりの子供の鯉でしょうか？
(子どもを口の中に入れて保護する魚もあるとか)



注目すべきは、後ろに写っているパッケージです。

「whale eating fish」とあります。
そのまま訳すと、「魚を食べるクジラ」となりますが、
この場合の「whale」は、クジラというよりは、「大きな魚」の意味なのでしょうね。
中古で2500円でネットに出されていましたが、売り切れでした。

以上